

**Q** 資金調達・運用・財政は三位一体的な財務戦略を

**A** 関係各課が連携し、より健全な財務活動に努める

三田部 恒明

**Q** 資金の調達と運用そして財政を一体として定量的にとらえ、的確な金融市場動向への対応とリスクマネジメントを実現する財務戦略が重要である。現状における取り組みは。

**A** 予算調製の際、市民ニーズを反映し成果重視の予算編成に努め、財源を効率的に有効活用していく事が肝要。調達については、市債や基金等もバランスよく活用し、運用面では、公金管理方針及び計画を定め安全性を第一に資金運用をしている。

**Q** 平成26年度と27年度比較で公金運用実績が大幅に伸びている。

**A** 平成26年度の運用収入は約5500万円。27年度は約1・5億円。主要因は債券の積極的な売却による。

**Q** 債券と預金の運用比率について債券比率を少し高めても良いのでは。

**A** 平成28年10月末時点での債券保有額は約90億円であり、27年度末と比較して約31億円増えており、比率も11・5%高くなっている。

**Q** 戦略的な財務活動を可能にする体制整備について研究調査をすべき。

**A** 今後、資金調達と運用がより一体性をもつて行えるよう関係各課と検討する場を設けていく。

—子ども医療費—

助成制度の拡充—

**Q** 寄居町では18歳年度末まで無料化を実施。熊谷市では平成29年1月より高校卒業まで拡大予定。大里圏域で、深谷市も制度拡充を。

**A** より一層、子育て世代が暮らしやすい市を目指し、子育て施策の一つとして検討していく。

●過去3年間の推移 (単位：円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
基金残高	16,976,456,071	15,646,655,810	17,807,737,141
債券保有額	4,303,488,250	4,202,437,750	5,900,006,711
債券比率	25.4%	26.9%	33.2%

**Q** 市の健康づくりの取り組みについて

**A** 健康長寿社会の実現に向け、諸事業を実施している

茂木 一郎

**Q** 市民の健康保持と増進に関する事業はどれくらいあるか。

**A** 事業への参加をポイント化した「深谷市健康マイレージ事業」ためるんピックふかや」に26年度は1800人、27年度は2680人の参加があった。28年度はプラス1000歩運動を開始し、620人が参加している。その他、「健康診査や各種がん検診」、「こころや体の健康相談」、「健康講座」、「ラジオ体操普及事業」、「減塩普及事業」などを実施している。また、「食生活改善推進員協議会」と協働し「親子料理教室」「生活習慣病予防教室」を開催する他、「広報ふかや」に掲載中の健康メニューの編集に協力いただいている。福祉健康まつりでは、医師会、歯科医師会、大学などの協力のもとに健康コーナーを設けている。

**Q** 学校では児童及び生徒に、どうしたら健康的な身体を保持できるか、どのような教育をしているか。

**A** 各学校が健康診断や体力テスト、生活習慣に関する調査等で実態を把握し、学校保健委員会や養護教諭の教育研究会等で共通認識を図り、肥満傾向ややせ過ぎなど、生活習慣の改善が必要な子供たちへ個別の生活指導をしている。また、栄養教諭等が望ましいエネルギー摂取の仕方や食品をバランスよく食べることの重要性を指導している。保健だよりや給食だよりなどを通して、家庭に情報発信し、保護者と連携して、子供の生活習慣の改善に取り組んでいる。



**Q** 通学路の交通安全確保について

**A** 地域ぐるみで通学路の安全体制整備を推進する

為谷 剛

**Q** 自宅から安全に登下校するルートはどのように選択されているのか。

**A** 通学路を設定する際には各学校が学区の現地調査を行うとともに、警察署・道路管理者・交通指導員・地域の関係者の意見を求め、その上で十分検討を重ね学校長が通学路を指定し、そのうち教育委員会へ届けられることになっている。

**Q** 通学路の安全点検は。

**A** 教育委員会では、毎年度当初安全確保の徹底を図るため、安全点検を実施するよう指導している。例えば、一斉下校時に子どもと一緒に、教員や保護者等が子どもの目線に立ち危険箇所の確認及び安全点検を行っている。特に今年度は5年に一度の大規模な通学路安全総点検を実施し、すべての通学路の中から課題のある箇所を抽出し、関係各課等と情報を共有し、対策を進めているところである。なお、23年度に実施した総点検において、県土整備事務所から深谷市が指摘された危険箇所については全て整備をされている状況に

ある。しかしながら、その重要性にかんがみ、今後ともきめ細やかな安全点検を実施していく。

**Q** 交通安全施設等の整備について。

**A** 通学路のうち市道における主な対策は区画線や路面表示・道路反射鏡や照明灯の修繕・設置であり教育委員会からの要望、情報提供等を受け順次対応している。多大な事業費と時間のかかる案件については、代替策としてポストコーン、立て看板等での注意喚起を行っている。



歩道整備の例 (国土交通省HPより掲載)

**Q** わかりやすい避難所運営マニュアルを作成しているか

**A** 平成28年2月に作成した

中矢 寿子

**Q** 避難所運営マニュアルに基づいた避難所設営の訓練実施状況について聞きたい。

**A** 今年の深谷市総合防災訓練で、新たな取り組みとして花園公民館を会場とした避難所開設訓練を実施した。避難所運営の説明をし、防災倉庫内の物品確認や備蓄食料の試食など行い理解を深めてもらった。

**Q** 参加者の反応はどうだったか。

**A** アンケート調査の結果、93%以上は役に立つとの答えだった。

**Q** 災害発生時の職員の動きを再点検し、住民の安全確保をすべきと思うがどうか。

**A** さまざまな訓練を通し、職員自らが役割を認識できるような防災体制の整備に今後も努めていきたい。

市民活動サポートセンターの設置をし、人材発掘のために意見交換会や担い手講習会を実施している。また、市民団体等の事業実施に対して具体的支援も必要なことから、クラウドファンディング利用の支援を行っている。今後も市民が活動しやすい体制を整備し推進したい。

**Q** 緑の王国建国10周年を機に、観光の目玉になる企画を考えては。

**A** 王国ボランティアと意見交換をし、検討していきたい。



避難所開設訓練の様子 (花園公民館)

—協働推進部—

スタートより2年経過—

**Q** 見えてきた課題と対応について。

**A** 多様化する市民ニーズに対し、行政だけの対応が難しくなっている事から、市民活動支援の窓口として